

企画展プレスリリース「 名作のつくりかた」

平素より当館の事業にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。
標記の件につきまして、本書のとおりご案内いたします。

- 1 **展覧会名** 「 名作のつくりかた」
- 2 **会 期** 令和2(2020)年7月11日(土)～9月22日(火・祝) ※8月17日(月)に一部展示替えを行います。
休館日：月曜日 ※ただし8月10日(月・祝)、9月21日(月・祝)は開館、8月11日(火)は休館
- 3 **展覧会概要**(資料2～5ページ参照)
名作は、いかにして名作になったのか——。茨城県近代美術館の所蔵作品の中でも特に人気の高い作品を中心に、素材や技法、構図などに着目し、様々な資料を紐解きながら、作家が作品をどのように構想し、完成へと導いたのか、制作の裏側を探ります。
- 4 **出品作品**(資料5ページ参照)



横山大観「流燈」 明治42(1909)年 絹本彩色 ※8月16日(日)まで展示



菱田春草「落葉」 明治42(1909)年 絹本彩色 ※8月18日(火)から展示

※8月17日(月)に一部展示替えを行います。
※広報用写真は6点あります。その他図版は資料5ページを参照してください。

1 展覧会名



名作のつくりかた 横山大観、菱田春草、中村彝^{つね} … …

2 主催等

主催：茨城県近代美術館

後援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／産経新聞社水戸支局／東京新聞水戸支局／日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局

3 会期

令和2(2020)年7月11日(土)～9月22日(火・祝) ※8月17日(月)に一部展示替えを行います。

休館日：毎週月曜日 *ただし8月10日(月・祝), 9月21日(月・祝)は開館, 8月11日(火)は休館

4 会場

茨城県近代美術館

5 入場料

一般 730(610)円, 満70歳以上 360(300)円, 高大生 490(370)円, 小中生 240(180)円

※()内は20名以上の団体料金 ※夏休み期間を除く土曜日は高校生以下無料

※障害者手帳・指定難病特定医療費受給者証等をご持参の方は無料

※9月15日(火)～21日(月・祝)は満70才以上の方は入場無料

6 展覧会概要(約380文字)

名作は、いかにして名作になったのか——。本展では、横山大観や菱田春草、中村彝など当館の中でも特に人気の高い所蔵作品を中心に、素材や技法、構図などに着目し、作家が作品をどのように構想して完成へと導いたのか、製作の裏側を探ります。

中村彝(1887-1924)や中西利雄(1900-1948)、浦田正夫(1910-1997)などの作品については、完成作とスケッチや下絵を比較することで、あるいは作品に描かれたモチーフに注目して画家が遺した家具などと比較することで、作家の意図を読み解きます。さらには中村義孝(1954年生まれ)や間島秀徳(1960年生まれ)など、素材の特性を見つめ直し、現在、独自の表現を試みている作家の制作方法については、作品とあわせて写真や映像によりくわしく紹介します。そのほか、横山大観(1868-1958)《流燈》や菱田春草(1874-1911)《落葉》など当館を代表する所蔵作品の見所をくわしくご紹介することで、名作に親しんでいただく機会といたします。

【広報文1】(約40字)

作品の素材や技法、構図などに着目し、作家の構想を探りながら作品の魅力を楽しむ展覧会。(42文字)

【広報文2】(約70字)

名作は、いかにして名作になったのか——。作品の素材や技法、構図などに着目し、作家の構想を探りながら作品の魅力に触れる展覧会。(62字)

【広報文3】(約90字)

名作は、いかにして名作になったのか——。茨城県近代美術館が所蔵する絵画や彫刻作品を中心に、素材や技法、構図などに着目し、作家の構想を探ることで作品のさらなる魅力に触れる展覧会。(88字)

【広報文4】(約120字)

名作は、いかにして名作になったのか——。茨城県近代美術館の所蔵作品の中でも特に人気の高い作品を中心に、素材や技法、構図などに着目し、様々な資料を紐解きながら、作家が作品をどのように構想し、完成へと導いたのか、制作の裏側を探ります。(115字)

7 展示構成と主な展示作品

I 作品のつくりかた ～資料から読み解く～

(1) 中村彝の静物画 ～遺品を手がかりに～

- ・中村彝「静物」 大正 8(1919)年 油彩, 板 当館蔵
- ・中村彝「雉子の静物」 大正 8(1919)年 油彩, 麻布 当館蔵

(2) 中西利雄の水彩画 ～下絵との比較から～

- ・中西利雄「トリエール風景」昭和 5(1930)年 水彩, 紙 当館蔵 ※8月16日(日)まで展示
- ・中西利雄「彫刻と女」昭和 14(1939)年 水彩, 麻布 当館蔵 ※8月18日(火)から展示

(3) 浦田正夫の日本画 ～下絵と制作ノートを読み解く～

- ・浦田正夫「古壁」 昭和 41(1966)年 紙本彩色 当館蔵
- ・浦田正夫「砂丘」 昭和 46(1971)年 紙本彩色 当館蔵

II 名作とは何か？

- ・横山大観「流燈」 明治 42(1909)年 絹本彩色 当館蔵 ※8月16日(日)まで展示
- ・菱田春草「落葉」 明治 42(1909)年 絹本彩色 当館蔵 ※8月18日(火)から展示

III 多彩なつくりかた ～素材と技と作品～

- ・白髪一雄「^{ふもんぼん}普門品 ^{うんらいくせいでん}雲雷鼓撃電」 昭和 55(1980)年 油彩, 麻布 当館蔵
- ・中村義孝「南風」平成 20(2008)年ブロンズ・象牙・鉄
- ・間島秀徳「KINESIS No.705(jackknife)」平成 19(2017)年 水・墨・アクリル絵具・顔料・樹脂膠, 麻紙, パネル

*章立て及び出品作品は一部変更することがあります。

*8月17日(月)に一部展示替えを行います。

8 見どころ

(1) 工程が肝要な日本画の“つくりかた”

天然に産する鉱物や岩石からつくられる天然岩絵具,あるいは人造の岩絵具などを膠で溶いて描く日本画は,複数の色を塗り重ねることで複雑な色相が得られるという特質があり,その特質を活かすためにも,どのように色を重ねるかといった制作工程を見極めることが重要となります。また,下の色を十分に乾かした上で塗り重ねる必要があることから一日の作業量が限定されるなど,様々な制約の中で画家は制作を進めていきます。当館では,日本画家の浦田正夫が残した膨大な下絵や制作の手控えを所蔵していることから,これら資料類を読み解き,完成作とあわせて展示することで,日本画の“つくりかた”をご紹介しますとともに,浦田の作品の魅力に迫ります。

(2) 構図への苦心がうかがえる中村彝《静物》

大正期に活躍した洋画家の中村彝は,若くして肺結核に冒されて特に晩年は外出もままならず,作品の多くは自身のアトリエで生み出されました。中でも数多く描いたのが静物画であり,作品には彝が実際に使用していた椅子やテーブルなどが登場します。当館の所蔵作品《静物》(大正 8年)は,一見すると,画面中央を縦に貫く木製の棒のようなものが異様にも思えますが,当館に寄贈された彝の遺品の一つ,木製のテーブルの一部であることを知ると合点がいきます。また,その構図はフランスの画家ポール・セザンヌ(1839-1906)の作品《テーブルの上に牛乳瓶と果実のある静物》(1890年頃),オスロ国立美術館蔵にきわめて近似しており,影響のほどがうかがえます。様々な資料をひもとくことで,作家の構図への苦心がうかがえる一点です。

(3) 水彩画の革新者・中西利雄

中西利雄は,生涯を通して水彩画に情熱を傾け,従来の透明画法に加えて不透明画法を併用し,鮮やかな

色彩とモダンなフォルムによる自らのスタイルを確立しました。当館が所蔵する《彫刻と女》は、具象彫刻が並ぶ展覧会場を背景に、黄と黒の鮮やかな着物を身に着けた女性が画面の真ん中に大きく描かれ、展覧会場での何気ない一瞬を捉えたかのように思えます。しかし、この作品の下絵を見ると、鑑賞する女性は二人連れで、背景の彫刻作品と同等のサイズで描かれており、完成作とは大きく印象を異にしています。両者を見比べることで、モダンな女性を画面の中心に据えた力強い作品へと昇華させた画家の手腕をうかがうことができます。

(4) 素材や技法と向き合った現代の作品

現代において、作家は日本画や洋画といった領域、それが規定するところの素材や技法に縛られることなく、独自の手法により作品を制作しています。中村義孝(1954-)は、戦後のイタリア彫刻にインスピレーションを受け、同地で蠟型鋳造法を学び、蠟の柔軟性を活かした作品づくりを行っています。また、間島秀徳(1960-)は、水を大量に撒いた画面の上からアクリル絵具や砂を垂らすという手法により、水が描き出す複雑な波紋や水が削り出した形象といった自然界を想起させる独自の画風へと至っています。これら現代の作家の制作過程を紹介する写真や映像資料を、作品と共に展示します。

(5) 名作は、なぜ名作なのか。

横山大観《流燈》(明治 42/1909 年)や菱田春草《落葉》(明治 42/1909 年)は、作品を所蔵する当館をはじめ、美術館施設での展示、あるいは印刷物や映像等により紹介される機会の多い、日本近代美術史上のいわば人気作品です。その理由の一つとしては、何よりも作品自体が魅力的であることが挙げられます。どのような作品でも作品が発表された当初から賛否両論あるのが当然としても、現在に至るまで「これは名作だ!」と考える多くの人々に支持され、人々の目に触れる機会も自然と多くなってきました。そして横山大観や菱田春草といった人物の画家としての重要性、両作品が大観や春草の作品の中でも代表作と言えることなどが美術史的にも理論づけられ、その価値が共有されてきました。

しかしながら「名作」という言葉を使うとき、何らかの厳密な規定があるわけではありません。「これは名作だ!」とする一人一人の感性が多くの人々の共感を得ることで「名作」となっていったとも言えます。それゆえ、多くの作品の中から自らが考える「名作」を選び、「名作」と感じるところの由縁を考えてみることで、より充実した作品鑑賞へとつながるのではないのでしょうか。

9 会期中のイベント

(1) 講演会「大観・春草の挑戦—材料から日本画誕生の謎を解く」

講師：荒井 経 氏 (日本画家／東京藝術大学大学院保存修復日本画教授)

日時：9月5日(土) 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：70名(要申込)

申込：事前申込(来館・往復ハガキ・メール)

申込締切：8月21日(金)

(2) ワークショップA「制作のヒミツに迫る!～石を砕いて描こう～」

講師：間島秀徳氏 (本展出品作家)

日時：9月19日(土) 午前10時～午後3時30分

会場：地階講座室

対象：小学生以上 ※小学生は保護者同伴でご参加ください

定員：15名程度(要申込, 要企画展チケット)

参加費：1,500円(材料代として)

申込：事前申込(来館・往復ハガキ・メール),

申込締切：8月21日(金)

(3)ワークショップB「石膏でかたどり！」

講師：当館職員

日時：9月13日（日） 午前10時～12時

会場：地階講座室

対象：どなたでも ※小学生は保護者同伴でご参加ください

定員：15名程度（要申込）

参加費：1,500円（材料代として）

申込：事前申込（来館・往復ハガキ・メール）

申込締切：8月21日（金）

(4)当館学芸員による鑑賞講座

日時：8月29日（土） 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：70名（要申込）

申込：事前申込（来館・往復ハガキ・メール）

申込締切：8月21日（金）

【各イベント申込方法】※(1)～(4)共通

※定員に達した時点で受付を終了いたします。

●来館の場合…美術館総合受付にある参加申込書に記入。

●往復ハガキの場合…往信用文面に希望者全員（1枚につき4名まで）の①氏名と②年齢，代表者の③住所
④電話番号，⑤参加を希望するイベント名，返信用宛名面に返信先（住所と氏名）を明記の上，当館「名作
のつくりかたイベント係」まで送付。

●Eメールの場合…件名に，イベント名，本文に希望者全員（1件につき4名まで）の①氏名と②年齢，代表
者の③住所と④電話番号を記入し，下記の申込専用アドレス宛に送信。

※必ずパソコンからのメール（当館からの返信）を受信できるアドレスからお申込みください。

[各イベント申し込み用のEメールアドレス]

○講演会… koenkai@modernart.museum.ibk.ed.jp

○ワークショップ A… seisaku@modernart.museum.ibk.ed.jp

○ワークショップ B… sekko@modernart.museum.ibk.ed.jp

○鑑賞講座… kouza@modernart.museum.ibk.ed.jp

10 問い合わせ先

茨城県近代美術館 〒310-0851 茨城県水戸市千波町東久保 666-1

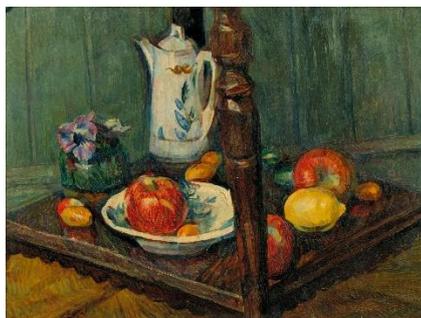
Tel:029-243-5111 Fax:029-243-9992 E-mail:fukyu-pub@modernart.museum.ibk.ed.jp

担当学芸員：美術課 吉田 / 広報担当：企画普及課 郡山 / イベント担当：企画普及課 河野

出品作品図版

- ※1 このページに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ掲載可能です。
- ※2 画像掲載の際には、当館までご一報ください。
- ※3 画像のトリミング・文字のせはお控えください。
- ※4 2・4・5の作品は展示替え予定作品です。掲載いただく際は、発行日などの広報のタイミングにご注意ください。

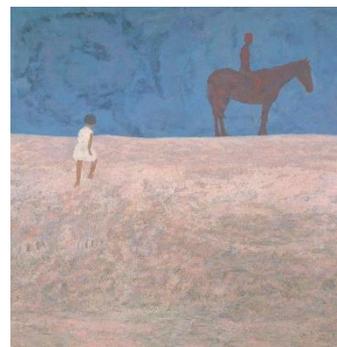
- 1 中村^{つね}彝「静物」 大正8(1919)年 油彩, 板
- 2 中西利雄「彫刻と女」昭和14(1939)年 水彩, 麻布 ※8月18日(火)から展示
- 3 浦田正夫「砂丘」 昭和46(1971)年 紙本彩色
- 4 横山大観「流燈」 明治42(1909)年 絹本彩色 ※8月16日(日)まで展示
- 5 菱田春草「落葉」 明治42(1909)年 絹本彩色 ※8月18日(火)から展示
- 6 白髪一雄「普門品^{ふもんぽん} 雲雷鼓掣電^{うんらいくせいでん}」 昭和55(1980)年 油彩, 麻布



1



2



3



4



5



6